

(2018 年度分)

<p>団体名</p>	<p>大阪 I J (いのちの授業)</p>		
			
			

【目的・動機】

緊急事態に直面した時に、児童や生徒が大人に知らせることにより、救命のリレーの一員となってもらうことができれば、学校で事故が起きた場合でも、突然死や後遺症が残るという可能性を減らすことができると考えています。子どもたちの学びの場が安心安全な環境になり、元気いっぱい笑顔で過ごせることを心から願っています。また、学校での緊急時に、教職員の方がどのように対処することが望ましいのかを、一次救命処置に加えて、運動時やプールなどのシナリオ想定をし、学校での安全手順書作成の一助となることを目的としている。

【活動の実施方法や内容】

大阪北部地震および西日本豪雨災害で甚大な被害を受けた高槻市を活動の本拠地としている「大阪 I J いのちの授業」は、高槻市の小学校および中学校、大阪市の高校の児童・生徒・教職員、河内長野市の小中学校教職員を対象として、児童・生徒にはいのちの授業、教職員には救命講習の要請を受けた。その結果、1年間に22回出講し、受講者は合計1,420名であった。受講した児童・生徒からは、「最初は、ひとが倒れていても何もできない。と思ったけど、先生を呼びに行ったり、AEDを取りに行ったり、手伝いができますと思います。」「救急医療に興味を持ちました。」という感想や寄せられた。

【活動で得られた成果】

被災したことにより、救急医療および防災に対するニーズが高まっているように思われる。児童・生徒は、授業開始時は恐る恐るといった感じであったが、グループに分かれての手技の練習では積極的に取り組む姿が多く見受けられた。出務するスタッフは、救急救命士、消防士、看護師、薬剤師が中心であることから、思秋期の児童・生徒の心理状態や、理解度に配慮したインストラクションを習得する必要があると考えている。